

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 広島市立竹屋小学校 | 校長氏名 | 尾形 慎治 | 生徒指導主事氏名 | 里本 孝文 |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|

取組事例名 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

取組のねらい『異年齢グループ活動』（異学年交流）

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

取組の具体的内容『年間を通して』

＜竹屋っ子グループ＞（縦割りグループ）

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

6月・・・折り鶴集会

7月・・・夏の集会

9月・・・クリーン活動

12月・・・冬の集会

随時・・・体育的集会



＜異学年交流＞

- ・1・2年の校内探検，おもちゃ祭り
- ・2・3年，4・5年，5・6年の学習紹介引き継ぎ
- ・すずかけ交流会（1・2年，3・4年，5・6年）
※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・運動会や遠足



取組の課題・創意工夫『グループ作り』

- ・年度当初のグループ作りに手間がかかる。
(児童の実態把握, グループの均等性, 要配慮児童の所属グループ) 等
- ・グループ数に対して担当者(職員)の不足。

取組の成果(効果)『思いやり』

- ・全校児童が顔見知りになった。
- ・上の学年にとっては, 自尊感情が揺さぶられ, 自主性やリーダー性が育った。
- ・下の学年にとっては, 上の学年に憧れ, 今後の見通しや, 学習意欲の向上につながった。
- ・互いを意識し, 尊重し, 思いやる気持ちが養われた。

今後の展開『継続と見直し』

- ・活動が定着していくために, 職員が意識統一して継続していくことが大切。
- ・マナー化を防ぐために活動内容や場面について見直すことも必要だと思う。

他校へのアドバイス『異学年交流』

・異学年での活動は, 上学年児童にとっても下学年児童にとっても効果が大きい活動である。
また, 学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても, 大きな役割を果たしている。